

特定非営利活動法人 ACE
法人化 5 周年・認定 NPO 化 記念事業
児童労働のない未来へキャンペーン
子どものしあわせリンクプロジェクト

完了報告書



2011 年 4 月

特定非営利活動法人 ACE

目次

1. 「子どものしあわせリンクプロジェクト」概要.....	2
2. ゲストプロフィール.....	3
3. 11/20（土）東京ー子ども交流プログラム「日本、インド、ガーナ 子ども交流会」	5
4. 11/21（日）東京ーシンポジウム「あなたのアクションで、世界は変わる」	7
5. 11/23（祝）大阪ーシンポジウム「聞いてほしいねん、学校にいかれへんぼくらのこと」	9
6. 東京-大阪シンポジウム参加者の概要.....	11
7. 11/21（日）東京ー5周年記念パーティー.....	12
8. 11/17（水）森永製菓チョコレート工場見学	13
9. 11/18（木）東京ー学校訪問 三輪田学園中学校・高等学校	14
10. 11/19（金）東京ー院内集会（参議院議員会館）	15
11. 11/24（水）東京ー学校訪問 伊勢市立五十鈴中学校.....	16
12. 11/24（水）愛知ーACE 交流会「ガーナの子ども、スタッフと話してみよう！」	17
13. 決算・収支報告.....	18
14. まとめ・総括	19

1. 「子どものしあわせリンクプロジェクト」概要

○概要・目的

ACE（エース）は、世界中のすべての子どもが権利を守られ、希望を持って安心して暮らせる社会をめざして児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力 NGO です。インドとガーナで子どもを危険な労働から守り、教育を推進する国際協力活動、日本では児童労働の問題を伝える啓発活動や、政府や企業への提言活動、ネットワークの活動を行っています。

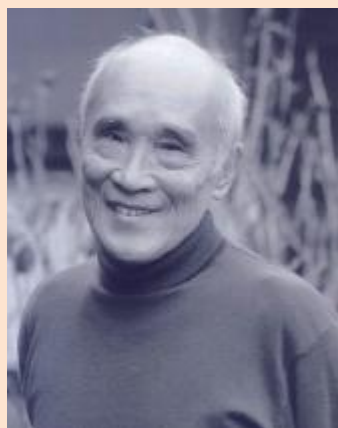
2010 年、NPO 法人となって 5 周年を迎えることができました。皆様からのご支援により、これまで 418 人の子どもたちを児童労働から救い、5,387 人の子どもの教育を支援することが出来ました。ありがとうございます。しかし、世界には学校へ行けずに重労働を担い、けがや病気の危険にさらされている児童労働をしている子どもが 2 億 1500 万人（2010 年 5 月 ILO 発表）います。

ACE 設立のきっかけは、世界同時に児童労働を知らせるムーブメントを日本で行うためでした。原点に戻り、「児童労働により子どもの権利が守られていない現状」を知らせ、これまでの経験から「児童労働はなくすことができる」ことを伝えるため、インドでサッカーボールを縫っていた子ども、ガーナのカカオ畑で働いていた子どもを招き、東京や大阪などで現地の子どもたちの現状を伝えるイベントや企画を開催いたしました。

開催日程	2010 年 11 月 15 日～26 日
開催地	東京都、大阪府、三重県、愛知県
スケジュール	● 11 月 15 日(月)： ガーナゲスト来日 ● 11 月 17 日(水)： 森永製菓株式会社 チョコレート工場見学(神奈川) ● 11 月 18 日(木)： 三輪田学園訪問(東京) ● 11 月 19 日(金)： ACE 事務所にてウェルカムディナー(東京) ● 11 月 20 日(土)： 子ども交流プログラム(東京)、インドゲスト来日 ● 11 月 21 日(日)： 東京シンポジウム&5 周年記念パーティー(東京) ● 11 月 23 日(祝)： 大阪シンポジウム(大阪) ● 11 月 24 日(水)： インドゲスト帰国、五十鈴中学校訪問(三重)、名古屋交流会(愛知) ● 11 月 26 日(金)： ガーナゲスト帰国
主催	特定非営利活動法人 ACE
後援	ILO 駐日事務所、特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会、特定非営利活動法人 関西国際交流団体協議会、財団法人 日本ユニセフ協会
助成	全日本社会貢献団体機構、財団法人庭野平和財団
協賛	味の素株式会社、NTT 労働組合 西日本本社総支部、花王株式会社、合同出版株式会社、JICA 地球ひろば、情報労連、中央ろうきん社会貢献基金、パタゴニア日本支社、ミニストップ株式会社、森永製菓株式会社、株式会社リコー、リー・ジャパン株式会社
協力	塚本やすしイラスト・デザイン事務所、電通ソーシャル・デザイン・エンジン、TYO Inc.、Camp KAZ division、LET IT BE Inc.

2. ゲストプロフィール

.....



谷川俊太郎

1931 年東京生まれ。都立豊多摩高校卒。1952 年『二十億光年の孤独』でデビュー。以後、詩、エッセー、脚本、翻訳など幅広い分野で活躍、現代を代表する詩人のひとり。主な作品に読売文学賞受賞の詩集『日々の地図』のほか、『六十二のソネット』、『21』など。また、絵本に『こっぷ』、『わたし』、訳詩集に日本翻訳文化賞受賞の『マザーグースのうた』や『ピーナッツ』などがある。『ふたり、おなじ星 のうで』で塚本やすしさんのイラストと共にコットン畑で働く子どもの生活を伝えた。2007 年から ACE のマンスリーサポーター。【東京シンポジウム】



ブベシュ・カント

インド、ウッタルプラデシュ州ポーリ村出身の 16 歳。理系の高等学校の 11 年生に在籍。農業、化学、地理などを勉強中。2002 年に ACE が支援した「子どもにやさしい村」プロジェクトでは、当時 9 歳で、子ども村議会の書記長をつとめた。その理由は「サッカーボール縫いをして子どもが働くのをやめさせたかったから」プロジェクトがはじまる前は、サッカーボール縫いをしていた。将来の夢は、教師。



ラケーシュ・センガル

BBA ナショナル・セクレタリー。1973 年生まれ、インド、ウッタル・プラデシュ州生まれ。大学で法律学を専攻後、国際関係政治学の修士号を取得。1994 年、BBA による同州のカーペット生産での児童労働の救出活動に参加し、1996 年から BBA 本部（デリー）に勤務。現在、児童労働に関する調査、子どもの救出、リハビリテーション、フォローアップなど被害にあった子どもの支援活動を担当し、捜査・救出活動の全国議長として活動している。【子ども交流会】【東京シンポジウム】【大阪シンポジウム】



オティ・ゴッドフレッド

ガーナ、アシャンティ州クワベナ・アクワ村生まれの 15 歳。3 人兄弟の長男。7 歳のときに父を亡くし、9 歳からカカオ畑で働き母を助けた。その後祖父母の支援を受けて就学したが、学校を休んでカカオ畑で働いていた。2009 年スマイル・ガーナプロジェクトが始まり勉強に専念すると、前期のテストでは一番の成績を修めた。現在中学 2 年生。

【子ども交流会】【東京シンポジウム】【大阪シンポジウム】

【工場見学】【三輪田学園訪問】【五十鈴中学校訪問】【名古屋交流会】



ナナ・ブレボン

スマイル・ガーナプロジェクト コーディネーター。1971 年、ガーナ、クマシ生まれ。ガーナ大学で心理学と政治学を専攻後、行政学・財政学の修士号を取得。現在ガーナの NGO、CRADA(Child Research for Action and Development Agency) の事務局長代理として、ACE と CRADA の協働プロジェクトであるスマイル・ガーナプロジェクトのコーディネーターを務めている。これまで 9 年間、プロジェクトの計画や監督、組織開発などに取り組み、参加型開発、子どもの権利の保護と推進、ジェンダー平等の推進などに関心がある。

【子ども交流会】【東京シンポジウム】【大阪シンポジウム】

【工場見学】【三輪田学園訪問】【五十鈴中学校訪問】【名古屋交流会】

○来日ゲストの変更と来日が叶わなかった理由について

今回大変残念なことに一部のインドからのゲストの来日が叶いませんでした。当初の予定では、ラケシュ・センガルさんに加え、ブベシュ君と、現地活動家 1 名の、計 3 名がインドから来日する予定でした。そのためのビザ申請等の書類をすべてそろえ、現地でもパスポート発行の申請を行いましたが、結果的にブベシュ君と現地活動家のパスポートが発給されずに、来日出来ませんでした。現地 NGO とぎりぎりまで調整し可能性にかけましたが、結果的にインド政府がパスポート自体の発給をしない限りはビザの発行もできないため、私どもが出来ることは大変限られていました。みなさんが期待されていたゲストとお会いできる機会を作れなかったことについて、この場を借りてお詫び申し上げます。今回の申請手続き等を行った現地 NGO、BBA によりますと、パスポート発行については口約束されたものの、予定日に取りに行くと発行されないという現状が数日間続きました。児童労働という問題にかかわる活動家に対してのパスポート発給、また活動家についてはイスラム教徒であったため、テロ対策などを背景に、発給が困難となったのではないかととのです。予定していたプログラムが実施できず大変残念でしたが、今回の海外招聘の難しさを学びに活かし、今後の活動に役立てていけたらと思います。

3. 11/20（土）東京ー子ども交流プログラム「日本、インド、ガーナ 子ども交流会」

○みんなで考えよう！子どもの権利

11 月 20 日は「国際子どもの権利条約」が出来た記念日、『世界子どもの日』です。この記念日に、クイズや映像を通じて、インドとガーナの子どものたちの生活を知り、子どもの権利について語り合う交流会を開催しました。東京近郊の中高生が参加し、インドとガーナから来日したゲストと一緒に子どもたちが暮らしやすい世界をつくるために何ができるか考えました。

日時:	2010 年 11 月 20 日(土)14:30～17:30
会場:	JICA 地球ひろば 3F 講堂
参加者数:	30 名(東京近郊の中学、高校生)
ボランティアスタッフ数:	17 名 ※ACE スタッフ&インターン 10 名

○自己紹介とクイズ、映像上映

まずは、参加者とゲストたちの緊張をほぐすため、会場内を自由に動きまわり、一人でも多くの人と自己紹介と握手をして、シールをたくさん集める自己紹介ゲームを行いました。一緒に参加してもらったインドとガーナのゲストと会ったら、インドとガーナの言葉で挨拶をしてもらいました。わずか五分間に、10 人以上と挨拶をした人がたくさんいました。

緊張がほぐれたところで、日本とインド、ガーナについて知ってもらうためのクイズを行いました。交流会の準備から参加してくれた高校生の三人が問題を考え、クイズを出題してくれました。各国の文化に関する問題をスクリーンに映しだし、どれが日本、インド、ガーナのモノかを当ててもらうクイズです。国旗や通貨など、ゲストも一緒に参加して考えてもらいました。

クイズの後は、各国で撮影された日常の風景や家、学校の様子などをまとめた映像を見てもらいました。ガーナのゴッドフレッドくんの村への道のりが、舗装された道路から未舗装の荒れた道へ変わっていく様子に驚いた子もいました。インドは、サッカーボール縫いが盛んな地域で、実際にサッカーボールを縫う映像を初めて見た子も少なくありません。満員電車で通勤する様子や学校帰りにファミレスへ寄る日本の高校生の様子も映像で紹介しました。



挨拶と握手をして自己紹介



クイズは四択。各国にあてはまるモノを選びます。

○「子どもの権利条約」を読み合わせ

この交流会では、児童労働の問題を考える上で重要な「子どもの権利条約」について学び合いました。まず、50以上ある条文の中から選んだ「差別の禁止」や「表現の自由」「虐待・放任からの保護」、「経済的搾取・有害な労働からの保護」など、『子どもが生まれながらにして持っている権利』について、全員で読み合わせをしました。



○子どもの権利、守られている？守られていない？

読み合わせをした条文で、日本での生活の中で「子どもの権利」が守られているか、守られていないか、その理由や具体的な例を考えてもらいました。例えば、「第二条：差別の禁止」は、宗教や性別に関わらずクリスマスに参加している、という「守られている」意見もあれば、外国籍の子どもや障害を持つ人が無意識の差別、嫌がらせを受け「守られていない」という意見も出ました。



○子どもたちのメッセージモニュメント作成

日本だけでなく、インドやガーナの子どもたちにも同じように考えてもらった「子どもの権利」をゲストから紹介してもらいました。そして、交流会を通じて学んだこと、考えたことなどを『子どもが幸せに生きるために大切なこと』というメッセージを、事前に聖心女子学院「もゆる会」と明治学院高校「FTCJ 明学」の子どもたちに描いてもらった絵に貼りつけてもらい、大きなモニュメントをつくりました。



翌日のシンポジウムで、モニュメントに書かれたメッセージを子どもたちに発表してもらいました。メッセージは後日、現地語に翻訳されインドとガーナへ送られました。どこの国で生まれようと、すべての権利が守られなければならないということを改めて感じてもらえたのではないのでしょうか。

○参加者の声（アンケートから抜粋）

- ・ 子どもの権利が守られていないことなど、ガーナとインドの人から聞くことが出来てよかった。
- ・ 日本、インド、ガーナそれぞれの国を比較することによって新しい発見や、ここを直したりすると良くなるということなど考えることができた。
- ・ 学校に通えた子どもたちの勉強に対する姿勢はとても真剣で、嬉しそうに夢を話していたのが印象的だった。この笑顔が世界にもっと増えるといいなと思った。

4. 11/21（日）東京ーシンポジウム「あなたのアクションで、世界は変わる」

○インド、ガーナ、日本。「そのこ」の未来のために、今出来ること

JICA 地球ひろばの講堂で開催した東京でのシンポジウムでは、インドとガーナからのゲストによる現地プロジェクト紹介や児童労働経験の話、谷川俊太郎さんによる詩「そのこ」の朗読と対談、会場展示などを通じて、参加者のみなさんに自分にできるアクションを考えてもらい、児童労働はなくすることができるというメッセージを伝えました。

日時:	2010 年 11 月 21 日(日) 14:00～17:30
会場:	JICA 地球ひろば 講堂 (東京都)
参加者数:	143 名
ボランティアスタッフ数:	16 名

○第 1 部「ACE が起こしてきた、児童労働をなくすためのアクション」

シンポジウムは、谷川俊太郎さんによる詩「そのこ」の映像鑑賞で幕を開けました。第 1 部では、ACE の活動紹介に続き、インドとガーナそれぞれの現地プロジェクトの紹介を行い、児童労働をしてきた子どもからの経験談に耳を傾けました。

ACE が設立当初から支援を続けてきたインドの「子どもにやさしい村プロジェクト」の紹介では、来日したゲストのラケーシュ・センガルさんから、ブベシュ・カントくんの来日できなかった理由にインドの児童労働者への差別という根強い現状があることを紹介していただきました。問題の奥深さを感じる一幕となりました。

ガーナでの支援活動「スマイル・ガーナプロジェクト」の紹介では、ナナ・プレボンさんからプロジェクトの紹介があり、オティ・ゴッドフレッドくんからカカオ畑で児童労働をしていた経験を語ってもらいました。特にゴッドフレッドくんが力強く語った、プロジェクト開始後の生活の変化、他の村で今も働く子どもたちを救ってほしいという想いは、参加者の心に強く訴えかけました。



児童労働をなくそうと訴えるラケーシュさん



自身の経験を力強く語るゴッドフレッドくん

○第2部「あなたのアクションで、世界は変わる」 ゲスト・谷川俊太郎さん

谷川俊太郎さんが書かれた詩「そのこ」をご本人に朗読していただき、ACE 代表・岩附との対談を行いました。対談では、谷川さんの子ども時代や「そのこ」を書かれた時のこと、ACE とのつながりなどについてお話をいただきました。途中ゴッドフレッドくんの書いた児童労働の詩を朗読され、彼と熱く握手やハグを交わした場面には会場に熱いものがこみ上げました。最後に、谷川さんのアクション「詩を書くこと」と「マンスリーサポーターになる」をご紹介いただきました。



○インド、ガーナ、日本からのメッセージ

前日の中高生対象イベントの報告があり、参加者がインドとガーナに向けたメッセージを紹介し、日本の中高生の想いを発信しました。ACE から応援ビデオメッセージやアクション事例を紹介した後、海外ゲストがそれぞれのアクションを紹介して会場へ力強いメッセージを伝えました。最後に再上映された「そのこ」の映像が静かな会場に響き、参加者それぞれの想いが漂う中での閉幕となりました。



○会場展示とみんなでつくった「アクション天の川」

会場ではサッカーボール縫いなどの児童労働体験展示やACE のキャッチフレーズ「遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちに」をテーマにした写真などを展示しました。休憩時間も活発に意見交換する参加者で会場は大いに賑わいました。自分のアクションを書いた星を貼って作る「アクション天の川」は、参加者のアクションの星で埋め尽くされ、それぞれの「児童労働をなくそう！」の想いが一つになりました。



○参加者の声（アンケートから抜粋）

- ・ 児童労働は日本にとっては遠いものと考えがちだが、自分たちにも関係していると思った。
- ・ 伝えることだけで本当に力になれるか疑問だったが、そこから始めることが大切だと実感できた。
- ・ ゴッドフレッドくんの言葉は重みがあり、心に響いた。
- ・ 日本の子どももがんばらねばと勇気をもらいました。
- ・ 谷川さんの詩の朗読はやはりとてもステキで感動的でした。
- ・ 相手を思い、自発性を持たせ、実績を得ていることはすごいと思う。
- ・ 児童労働をなくす努力を成果として出ている事に感動。自分も一助となれるよう取り組みたい。

5. 11/23 (祝) 大阪ーシンポジウム「聞いてほしいねん、学校にいかれへんぼくらのこと」

大阪でのシンポジウムでは、インドとガーナからのゲストと共に、それぞれの国のサッカーボール産業やカカオ産業での児童労働の問題と、それに対する ACE の取り組みを紹介しました。またパネルディスカッションを行い、会場からの質問に答えながら、取り組みによってどのような変化があったかや、児童労働をなくすために私たちに何ができるかなどを共有しました。

日時:	2010 年 11 月 23 日(祝) 13:30~16:30
会場:	大阪歴史博物館 講堂
参加者数:	58 名
ボランティアスタッフ数:	27 名

○映像とトークによるインドとガーナの児童労働と ACE による取り組み紹介

まず、詩人の谷川俊太郎さんが「そのこ」を朗読している様子（11/21 東京シンポジウムで実施）の映像上映から始まり、ACE 代表の岩附から挨拶と ACE の活動紹介が行われました。

次に、インド、ガーナの子どもたちの様子が分かる映像を上映した後、ゲストからの話を聞きました。吉本瑛美さん（ACE 5 周年事業関西実行委員）を聞き手として、ラケーシュさんからインドのサッカーボール製造での児童労働について、またゴッドフレッドさんから自ら体験したガーナのカカオ畑での児童労働について話がありました。ゴッドフレッドさんからは、学校へ行けず、十分食事と与えられず毎日働き続けなければならなかった過酷な生活状況について自らの言葉で説明してくれました。

その後、ACE が実施している現地プロジェクトを紹介しました。ACE 国際協力事業担当スタッフ成田が「インド子どもにやさしい村プロジェクト」について、ACE 事務局長白木が「スマイル・ガーナプロジェクト」について、それぞれの活動やこれまでの成果を発表しました。



インドの児童労働について話すラケーシュさん



映像やスライドを通じて現地の活動を紹介

○インド・スタディーツアー参加者とのパネルディスカッション

パネルディスカッションでは、来日したゲストの他に、インドのスタディーツアーに参加した下山千晶さんがパネリストとして、また ACE 事務局長の白木がモデレーターとして登壇しました。下山さんからはインドを訪問した時の印象や児童労働について感じたことなどを共有していただきました。また会場の参加者から寄せられた質問に答えながら、支援による村の変化などを聞きました。



○プロジェクトによる変化について

『児童労働をなくし子どもたちが学校へ行けるようにするには、親の意識をどのように変えたか』、『子どもが働くのをやめて親は困らないか』などの質問が多くありました。村の集会や家庭での話し合いが行われたことで親が教育について意識し始め、教育を受けた時と受けない時の違いに気づいたそうです。また、住民が前より協力して効率的にカカオ生産をするようになり、自助グループを作って貯金するようになったなどの話がありました。



○児童労働をなくすために私たちにできること

児童労働をなくすためにできることをゲストのみなさんに聞いてみました。ゴッドフレッドくんからは「ガーナには僕の村以外にもたくさんの子どものカカオ畑で働いています。子どもたちが学校に行けるように支援して下さい」と訴えが、ラケーシュさんから「私たちが食べたり、使っているモノがどのようにできたのかまず関心を持って下さい。児童労働は私たちの生活に関係しています。」というメッセージをいただきました。



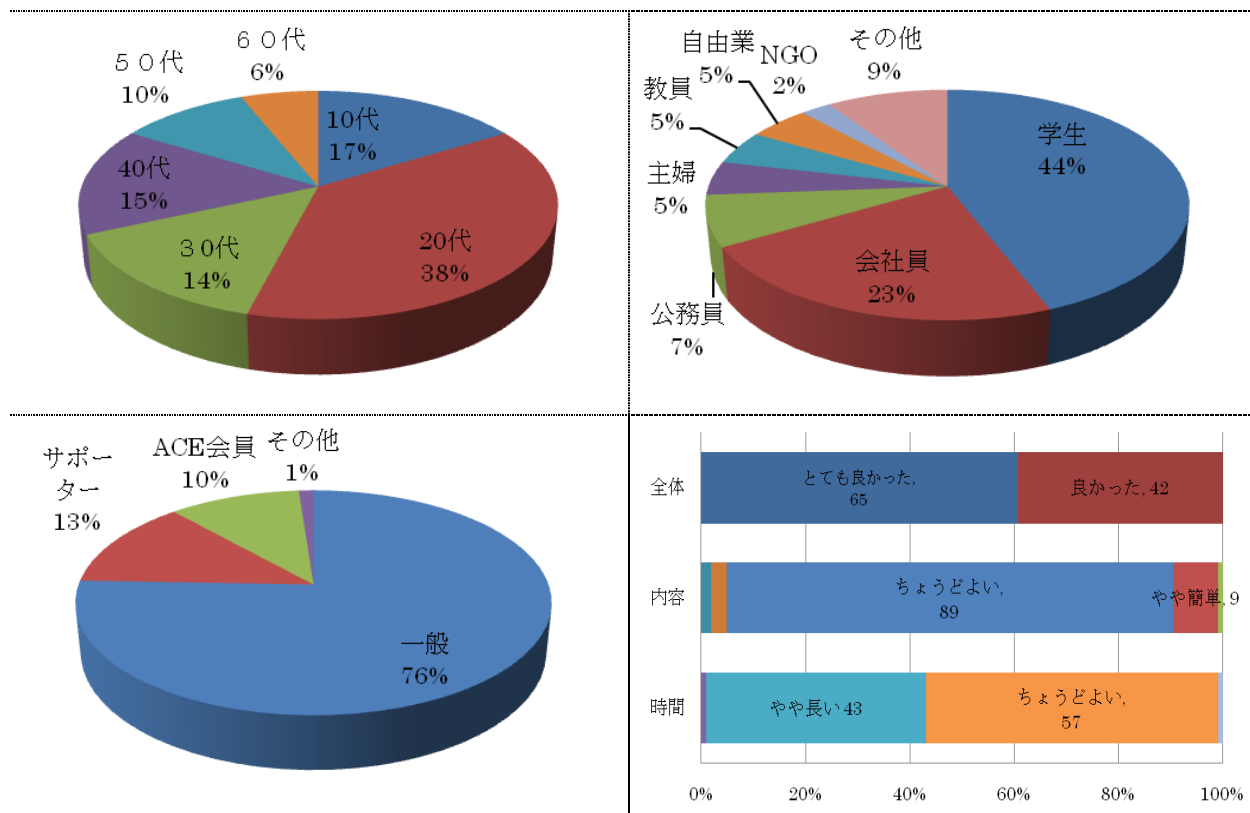
そしてゴッドフレッドくんが書いた詩が朗読され、児童労働をなくしてほしいという強いメッセージが会場へ響きました。最後に児童労働をなくすためのアクション例が紹介され、閉会となりました。

○参加者の声（アンケートから抜粋）

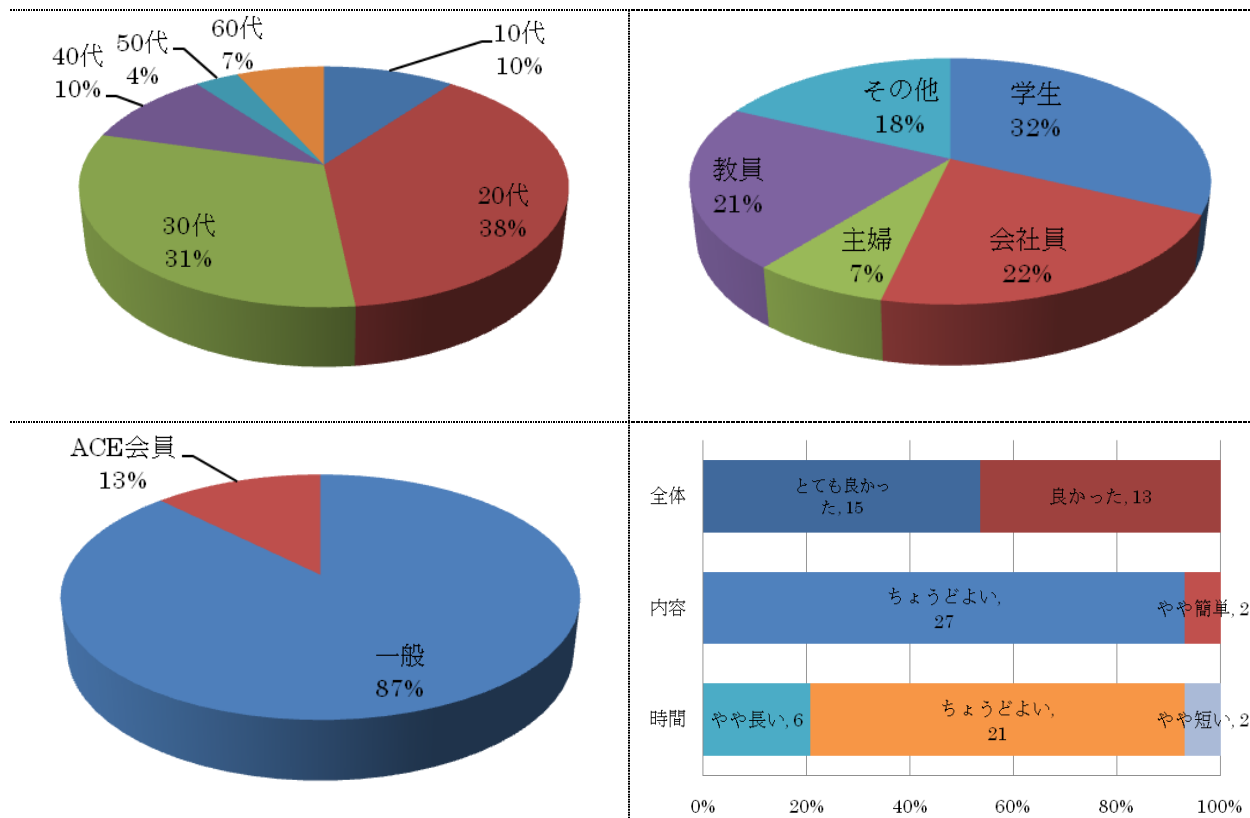
- ・ 現地の映像を通して、村の様子や児童労働の様子を直接見ることが出来て良かったです。また現地で活動している人の話を聞くことが初めてだったので勉強になりました。
- ・ 日本にいながらも世界の児童労働の状況がわかるよう、もっとたくさんの情報やメッセージを発信し続けてほしいです。

6. 東京-大阪シンポジウム参加者の概要

1. 東京シンポジウム（年齢・職業・参加者内訳・イベント満足度）



2. 大阪シンポジウム（年齢・職業・参加者内訳・イベント満足度）



7. 11/21（日）東京ー5周年記念パーティー

日時:	2010 年 11 月 21 日(日) 18:00~20:00
会場:	JICA 地球ひろば セミナールーム 301
参加者数:	48 名

○ACE の NPO 法人化 5 周年をお祝いしました

シンポジウム終了後、インド・ガーナからのゲストを囲み、パーティー参加者、ACE スタッフ、ボランティア皆で、ACE の NPO 法人化 5 周年を祝うパーティーを開催しました。ACE 代表岩附からのご挨拶の後、ACE 評議員でもある拓殖大学教授、長坂寿久先生のご発声で乾杯し、パーティーはスタート。終始和やかな雰囲気の中、映像で 5 年間の歩みを振り返りながら、パーティーは進行していき、世界各国のお料理を囲んで参加者同士の会話が弾む、笑顔があふれる会となりました。



○ナナさんへお誕生日のサプライズプレゼント！

実は、この日はガーナからのゲスト、ナナさんのお誕生日。これまでの感謝とお誕生日おめでとうの気持ちを込め、全員でバースデーソングを歌って、お祝いしました。ガーナにいるときはお誕生日を祝うことはあまりないそうで、驚きと感動で思わず声がつまるナナさんに、涙腺がゆるむスタッフも。



○たくさんの応援メッセージをいただきました！

日頃からお世話になっている企業・団体・学校の方々から、温かく力強い応援・激励メッセージをいただきました。ありがとうございました！パーティーの終わりにゲストのラケーシュさん、ナナさん、ゴッドフレッドさんからそれぞれ一言いただいた後、ACE 理事の安永より、パーティー参加者のみなさんと、四ヶ月間ボランティアとして一緒に準備を進めてきた ACE 5 周年事業実行委員の方々へお礼を述べさせていただきました。最後に参加者全員で集合写真を撮影し、閉会となりました。



8. 11/17（水）森永製菓チョコレート工場見学

日時:	2010 年 11 月 17 日(水)
会場:	森永製菓株式会社 鶴見工場

○森永製菓、矢田社長と面会

森永製菓株式会社様のご厚意により、チョコレート工場の特別見学プログラムを組んでいただきました。ゴッドフレッドくんは矢田取締役社長に面会し、カカオ畑での児童労働をしていたことや、どのように学校に行けるようになったかを話す機会をいただきました。矢田社長からは「おいしく、たのしく、すこやかに」の社是をご紹介いただき、「1 チョコ for 1 スマイル」キャンペーンを通じた協働や今後の連携についてお話をいただきました。



○カカオがチョコレートになっていくプロセスを見学

毎日見ているカカオ豆が、どのようにチョコレートになるのか知らなかったゴッドフレッドくんとナナさん。ガーナ産のカカオ豆が入った麻袋が積み上げられた倉庫から見学は始まり、実際にダースチョコレートが出来るまでのプロセスを見せていただきました。一番驚いたのは、すべてが機械化されていること。工場に入るには白衣、マスクなどを着用し、手を洗ったり、工場内を清潔に保つことも新鮮だったようです。毎日このプロセスを通じて大量にチョコレートが作られていることが実感できました。



○チョコレート工場で日本のチョコレートを試食

裏に「1 チョコ for 1 スマイルの」キャンペーン紹介と ACE のロゴが印刷されている箱へ、チョコレートが次々とパッケージされていくのを見届けた後は、試食タイム。ダース・チョコレートの 3 つの味と、プレミアム・ダースを試食しました。ゴッドフレッドくんのお気に入り、赤い箱のダース・ミルクチョコレート。お土産にもたくさんいただきましたが、暑いガーナには残念ながら持って帰れないので、かなりの量を滞在中に消費した模様です。子どもが大好きなチョコレートで、世界の子どもたちを笑顔にするパートナーシップがいよいよ始まります。



9. 11/18（木）東京一学校訪問 三輪田学園中学校・高等学校

日時:	2011 年 11 月 18 日
会場:	三輪田学園中学校・高等学校（東京都千代田区九段北 3-3-15）
参加者数:	約 70 名（生徒、保護者、教員含めて）

○日本の学校を訪問

ガーナから来日したゴッドフレッドくんとスタッフのナナさんと一緒に、三輪田学園中学校・高等学校を訪問しました。放課後、生徒と保護者を対象に講演会を行いました。少し早めに到着したので、学校の様子を見学させてもらおうと、二人ははじめて見た日本の学校がとてもきれいだと驚いていました。講演会では、ACE が現地で行う「スマイル・ガーナ プロジェクト」が始まり、村でどのような変化があったのか紹介してもらいました。



○カカオ畑で朝早くから働いていた

ゴッドフレッドくんのお父さんがなくなったとき、親戚が全財産を持っていかれたそうです。祖父母に引き取られてからも家族を支えるためにカカオ畑で働くようになりました。朝早く、ご飯を食べる前に誰よりも早くカカオ畑に行っていたそうです。プロジェクトが始まり、スタッフから親や大人に教育がどれだけ重要かを話してくれたおかげで学校へ通えるようになりました。



○子どもたちだけでなく、村の大人たちも変わっていった

それまで人前で話すことがなかったゴッドフレッドくんも、プロジェクトが始まってからできた「子どもクラブ」の活動を通じて、大勢の人前で自信を持って話せるようになったと、とても堂々と話していました。子どもたちで村をよくするために何が必要か話し合い、行政に要望を届けることができるようになり、村に救急箱が支給されたり、教室の机や椅子が増えたそうです。



生徒からの「将来何がしたいですか？」という質問に対し、「医者になりたい」と即答するゴッドフレッドくん。村には病院もなく、毒ヘビにかまれて亡くなる人を子どもの頃からみてきた。だから、医者になって、村の人たちを助けたいと語ってくれました。他の村では、働いている子どもがまだまだたくさんいる。彼らも学校へ通えるように、より多くの支援を呼び掛けました。

10. 11/19（金）東京一院内集会（参議院議員会館）

日時:	2010 年 11 月 19 日(金) 12 時 10 分～13 時
会場:	参議院議員会館 B1 B104(東京都)
参加者数:	CL-Net40 名、外務省職員 2 名、厚労省職員 2 名

○初の「児童労働」院内集会を開催

児童労働ネットワーク（CL-Net）の主催で、国会議員を対象とした「児童労働に関する意見交換会～児童労働をしていたインド・ガーナの子どもの声を聴く～」を開催しました。児童労働をメインテーマに据えた院内集会は今回が初開催となります。ガーナから来日中のゴッドフレッドさん、ナナさんをゲストに迎え、参加した国会議員や労働組合員等に、ACE が実施する現地プロジェクトや児童労働経験の話を直接伝えました。



○会場に強く響いたゴッドフレッドくんの話

谷川俊太郎さんの詩「そのこ」の映像上映と、ACE 事務局長の白木による「スマイル・ガーナ プロジェクト」の紹介の後、ゴッドフレッドくんからカカオ農園での過酷な児童労働の経験を話すと、会場は静まり返り、参加者は彼の話に真剣に耳を傾けました。ACE のプロジェクトがはじまり、学校へ行けるようになり、人前で話すことや子どもの権利を要求出来るようになったことを堂々と語りました。



「日本のみなさんへは本当に感謝しているが、まだ他のコミュニティでは働いている子どもたちがいることをとても悲しく思っている。スマイル・ガーナプロジェクトがもっと広がって、より多くの子どもたちが学校へ行けることを願っている」と語った彼の言葉は、会場に強く響きました。

○出席議員と協力組織から一言ずつ

ご多忙の中で出席いただいた国会議員のみなさまと開催にご協力いただいた組織から一言ずつご挨拶をいただきました。児童労働や国際課題に関心を持たれたきっかけやこれまでの関わりなどを、ILO 駐日事務所、厚生労働省、外務省からは、組織の取り組みや今後の方針をご紹介いただき、みなさんとともに取り組んでいきたいという力強い声が多く寄せられました。



11. 11/24（水）三重一学校訪問 伊勢市立五十鈴中学校

日時:	2010 年 11 月 24 日(水) 13:20～15:30
会場:	三重県伊勢市立五十鈴中学校
参加者数:	約 120 名

○一緒に給食を食べ、昼休みには校庭でサッカー！

2008 年に ACE が講師として授業を行わせていただいていた以来、学校単位で募金活動にご協力いただいている三重県の中学校に訪問しました。中学 2 年生のクラスと一緒に給食を食べました。日本の食べ物はあまり得意でないゴッドフレッドくんも「給食おいしい！」と満足の様子。お昼休みは、サッカーが大好きなゴッドフレッドくんは生徒と一緒にサッカーを楽しみました。言葉がわからなくてもボールがあればコミュニケーション成立です。ナナさんは日本の公立の中学校の校舎が立派で綺麗なことに感銘し、学校のパンフレットをもらったり、給食のシステムを校長先生に尋ねたりと、熱心に情報収集をしていました。



○「子ども兵士反対」する授業にも参加

午後は今回の訪問受け入れをコーディネートしてくださった、西村先生の家庭科の授業を見学。授業の内容は「子ども兵士」。授業の内容を通訳して聞いていたゴッドフレッドくんも真剣に聞き入っていました。授業では自分たちに出来ることアクションとして、レッドハンドキャンペーンに参加。手に赤いインクをつけて手形をとり、「STOP CHILD SOLDIER!!」とメッセージを添えました。



○最後の質問は『彼女いますか？』

6 時間目は全校生徒が参加。お父さんが亡くなって働き苦労したこと、村で病院に行けば助かったかもしれない人たちが亡くなっていったのを見てきたから、将来は医者になりたいと語るゴッドフレッドくんの言葉に聞きいっていました。生徒たちは照れながらもいろいろな質問をしてくれました。最後の質問「彼女いますか？」には『いません』という答えでしたが『君はいるの？』と聞き返し、会場が笑いに包まれました。同年代の子どもと会話ができて、とても楽しかったようです。ゴッドフレッドくんが滞在中のプログラムの中で最も良かったものの一つにあげたほど、思い出深いものとなったようです。



12. 11/24（水）愛知－ACE 交流会「ガーナの子ども、スタッフと話してみよう！」

○カカオ生産地の児童労働と村人たちの取り組みについて～

日時:	2010 年 11 月 24 日(水) 18:30～20:30
会場:	ウィルあいち
参加者数:	42 名

○合唱団による歌の発表

「名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会」の土井ゆきさんと「愛知子どもの幸せと平和を願う合唱団」のご協力により、交流会が名古屋で開催されました。初めに、合唱団による歌が披露されました。歌は、合唱団メンバーが自ら作詞・作曲したカカオ畑での児童労働についてなどの内容で、ガーナのゲストや参加者の心を動かす素晴らしい歌でした。



○ガーナの児童労働と取りくみについての話

次に、ガーナのカカオ生産での児童労働と、ACE の取り組みについてゲストの二人から紹介してもらいました。ゴッドフレッドくんは、自ら経験した過酷な労働や「スマイル・ガーナ プロジェクト」が村で実施されてからの生活の変化について話しました。



その後、ゲストと参加者が軽食を取りながら交流する時間を持ちました。参加者から村での活動などについて質問があり、ナナさんから住民グループができて貯金をし、必要な時に少額融資を受けられるようになり、親が子どもの文具を購入できるようになった、などの話をしてくれました。最後に、合唱団の子どもたちから手造りのプレゼントの贈呈などもあり、和やかな時間となりました。

○参加者からの声（アンケートから抜粋）

- ・ ガーナの人が歌をほめてくれて、うれしかった。
（合唱団の子どもより）
- ・ 歌の詩が素敵で、歌声を聞きながら涙が出ました。
日本の子どもたちにぜひ聞かせてあげたいです。
- ・ 自分に何が出来るか考えるきっかけになりました。
- ・ ガーナの子どもたちがたくさん学校へ行けるよう
応援する人を増やしたいです。



13. 決算・収支報告

●収入

項目	内容	予算	決算
助成金	全日本社会貢献団体機構	1,500,000	1,500,000
助成金	庭野平和財団	800,000	800,000
事業収入	東京シンポジウム、パーティー、大阪シンポジウム、名古屋イベント参加費	610,000	351,900
自己負担	協賛金をつのり、5周年記念で設立した世界の子どもの権利基金から拠出	2,000,000	1,497,228
収入合計(A)		4,910,000	4,149,128

●支出(一部未払い有)

項目	内容	予算	決算
旅費交通費(日本国内)	宿泊費、滞在費、東京、大阪、三重、名古屋の移動交通費、5周年事業専属インターン交通費	913,240	839,809
旅費交通費(海外)	ガーナゲスト2名渡航費、インドゲスト1名渡航費、現地ワークショップ実施費、ビザ申請費用等(インドゲスト分は2011年1月に支払いしたため決算に未反映)	630,000	512,907
謝金	英語及びヒンディー語通訳、シンポジウムゲスト、写真撮影者謝礼	670,000	634,997
備品	ビデオカメラ、予備バッテリー、三脚、保存メディア、現地用デジタルカメラ	150,000	160,613
委託費	映像制作費(2011年2月に支払いのため反映されておらず)	150,000	150,000
会場費	東京子ども交流会、シンポジウム、パーティー、大阪シンポジウム、名古屋交流会、	560,000	306,410
印刷物・広報費	チラシ・ポスター・絵ハガキデザイン代及び印刷費、当日配布資料印刷費、ウェブサイトデザイン費(未払い)	665,000	462,038
通信費、消耗品、管理費、人件費	国際宅急便・電話代、コピー用紙封筒など消耗品、担当スタッフ2.5/MM、家賃1カ月分	1,050,500	1,082,354
支出合計(B)		4,910,000	4,149,128

収支=収入(A)-支出(B)		0	0
----------------	--	---	---

14. まとめ・総括

.....

NPO 法人化 5 周年事業の実施のために多くの方にご協力、ご支援を賜りましたこと、感謝申し上げます。折しも 2010 年 3 月には認定 NPO 法人の認可もいただき、2010 年は法人組織としてもステップアップを遂げることのできる記念すべき年となりました。このような年に、児童労働という問題について多くの方に知らせ、考え、行動を促す一連のプログラムを行えたことを大変嬉しく思います。

海外からゲストを招聘して一連のプログラムを行いましたのは自主事業としては法人化して初の試みでした。パスポートが発給されなかった問題については、海外招聘の難しさを改めて認識いたしました、それでも 3 名のゲストを迎え、日本の皆さまに直接語りかけていただく機会を持てたことは大変意義深く感じています。多くの方から「実際に直接話を聞くことができ、児童労働が現実的に存在する問題としてより一層認識が出来た」など感想をいただき、児童労働への理解、また問題解決へ向けた共感を強く持っていただくことが出来たと思います。インターネットがいくら発達しても、実際に顔を合わせて同じ空間を共有しお話を直接聞く迫りに勝るものはないと実感いたしました。

シンポジウムのアンケート結果を見ますと、7~8 割が ACE の会員やサポーターではない一般のご参加でした。今回の事業を通じて、児童労働問題への関心喚起、また ACE の活動の認知度を上げることができたのではないかと思います。

今回の事業にあわせて谷川俊太郎さんの詩、塚本やすしさんの絵、また CampKaz さんにご協力いただいた映像に、Let it be さんに仲介いただき、やもり（森山良子さんと矢野顕子さんのユニット）の楽曲をあわせ、大変豪華な児童労働を伝えるアート作品が完成いたしました。みなさまプロボノ（ボランティア）で多大なご協力をいただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

本事業の実施にあたっては、多くのボランティアのみなさまのご協力がありました。東京の子ども交流会、シンポジウム、また大阪のシンポジウムのプログラム作成にあたっては朝昼夜を問わずミーティングを開催し意見を交わしボランティアの実行委員のみなさんと一緒に作成しました。子どもプログラム作成には高校生を中心に子どもたち自身にも単なる参加者ではなく運営側としての作業にも参画してもらい、大変意義深く感じています。また名古屋でのイベントには現地のフェアトレード団体のご協力や、東京、三重での学校訪問でも学校をあげたご協力をいただきました。カカオ農家出身のゴッドフレッド君にとっては、工場見学でどのようにカカオがチョコレートになるのかを実際に自分の目で見て、体感できたことも、大変貴重な経験だったと思います。結果的に、多くの方の意見と協力が結実し一連の事業を行うことが出来ました。この場をかりて御礼申し上げます。

最後に、助成団体からの助成、また企業様からの協賛金なくしては、これほど大掛かりなプログラムは実施できませんでした。皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。

この事業で得た経験やご縁を大切に、今後も ACE の事業の中で活かしながら新たなプログラムへとつなげていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

2011 年 1 月吉日
特定非営利活動法人 ACE
代表 岩附 由香